

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900573		
法人名	社会福祉法人 柏寿会		
事業所名	福光園グループホームフクちゃんハウス		
所在地	岩手県一関市真柴字岩ノ沢91番地19		
自己評価作成日	平成22年9月24日	評価結果市町村受理日	平成22年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370900573&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370900573&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号
訪問調査日	平成22年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>研修委員会、保健委員会を設け、共に学び、質の向上に向け取り組んでいる。又、家族様、行政の方々を招き年間を通じ、学習した成果を発表している。</p> <p>入居者個々の生活環境を把握し、その人らしい生活を日々送って頂く為相互の共有化を図り、個別支援に向けた取り組みを提供している。認知症になっても自由にそして、自己決定を導き出しその日の状態を把握し安心して生活して頂く為の支援体制が整っている。出来るという表現を日々の生活の中から引き出し、言葉に出来ない思いを表情、体動から理解し対応している。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホーム独自の委員会(研修・保健)を設けて企画、研修、発表と積極的な活動をしている。利用者、家族とは緊密な関係作りがされており、お互いが感謝の気持ちを持ち合い、良好な関係が保たれている。ケアプラン作成、見直しには、大半の家族が参加し、意見を出し合い、納得のいく話し合いがされている。ホームオリジナルのバイタル点検表を作成して、1ヶ月分をまとめ、利用者の様子を細やかに記入して、家族に郵送し報告をしている。職員の減った分を全員で補いあい、利用者本位のケアをしている様子が見て取れた。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員個々の考えを集約し理念を作成している。4つの方針には、位置づけがあり良く理解、共有した上で仕事に取り組んでいる。見やすい場所に掲示し個々に確認している。	4つ目の項目は、地域密着型を意識して職員全員で作成をした。玄関正面、事務室に掲示してある。理念の目指すものを、職員会議の中で確認し、共有をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(運動会、桃狩り)に参加している。慰問やボランティアの方々と交流し、又、協力、援助して頂いている。(すぎなの会、畑仕事)	法人やデイサービスの行事には積極的に参加をしている。地区の運動会、桃狩りに出かけたり、保育園との交流、食事作りボランティアの受け入れをしている。小学校への雑巾贈呈は5年目になり、毎年100枚を縫い、届けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個々の生活安定と、機能維持に努め、出来る能力を活かし、毎年小学校へ雑巾寄贈を行っている。新聞、テレビに取り上げて頂き、地域の方々へ伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、年6回開催している。資料等を基に報告している。意見が出された際、職員会議等で話し合い、職員全員でサービス向上に向け取り組んでいる。	行政、区長をはじめとして、幅広い委員の参加を依頼し、2ヶ月ごとに開催されている。事故、活動報告、評価についても説明して意見を頂いている。家族も半数が参加をしている。毎月広報誌を地区に回覧している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、ホーム内研修会へ参加して頂き、事業報告を行い、意見、感想を頂き質の向上に取り組んでいる。GH定例会等への参加もあり、相互の情報共有に努めている。	運営推進会議や、法人の意見発表会に参加があり、助言・指導を頂いている。会議のない月には、事故報告やホームの現状を説明しにでかけたり、電話で説明をしたりと、情報の共有をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員同士理解し、身体拘束チェック表に基づき防止に取り組んでいる。又、毎月合同委員会にて確認も行っている。本人の気持ちを理解し、抑制する事なく対応している。	職員体制が変更になり(減員)夜間を除いて施錠せず、玄関のチャイムが作動している。家族からは不安ではないかとの声もあったが、見守り方法を徹底することで理解を頂いている。外出傾向の強い方には、職員が付き添い納得を得られるまで対応をして、抑制はしない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、職員会議で取り上げたり、資料にて情報共有、現状把握に努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 福光園グループホーム フクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護等の制度活用者はいないものの、今後の為にも職員会議において資料を提示し、職員全員で理解して頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、関係書類提示し説明させて頂いている。家族様へきちんと説明し納得して頂いた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談箱の設置。 年2回家族アンケートを実施し、その結果を受け次ぎ活かせるよう取り組んでいる。又、運営推進会議でもその内容について取り上げている。	現在まで苦情は1件もないが、利用者の体調を気遣う家族からの連絡はある。月2回面会に来る方、関東から月1回通院介助で来所する家族もある。請求書発送時、様子報告も同封している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で意見を出し合い、話し合いを行っている。又、法人全体会議年2回あり、経営、各事業所報告を確認している。現在の当ホームの実績報告等も確認し、今後に活かす取り組みを行っている。	法人全体で年2回人事交流会があり、自己評価をした結果を全員で検討し結果を共有している。利用者との関係を大切にしたい職員の気付きを取り上げて、運営に活かし成果につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり、年2回自己評価、上司評価により個別面談を行い、現状について話し合っている。勤務形態も職員と共に考え作成し、少しでも負担軽減が出来る体制にしている。働く意欲向上に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内、外の研修会に参加し、職員会議等で復命して頂き共有に繋げている。又、毎月の職員会議で職員個々が問題提起を行い、互いに取り組んでいる。視点のズレを無くす起爆剤になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県GH協会、ブロック定例会へ参加し情報交換を行い、相互のサービスの質の向上に努めている。 他施設との職員交換研修の実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問調査に行き、本人、家族様との面談を通じて理解(生活に対して)出来るよう支援している。又、家族様の情報も大切にその後のケア、生活に反映出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問調査を通じて、家族様としての思い、今後について聞き入れ対応している。環境(施設)を見て頂き、納得した上でサービスのスタートとしている。家族様もケアの協力者である旨伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問調査から知り得た内容をフェイスシートにまとめ、職員会議で入居判定会議を実施している。生活空間を見て頂き、共同生活の場である事を理解して頂き、相互の共有に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者個々の潜在能力を把握し、出来る機能を活かしコミュニケーションを図りながら本人の思いを尊重した上で洗濯物たみ等の軽作業を手伝って頂いている。周囲からの影響も大きく気づきの大切さも得られている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様もケアの協力者でもあり、行事の際は多数の参加を頂いており交流出来る場になっている。又、毎月お便り、新聞で日常生活について報告し現状の姿を理解して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで培ってきた場所を大切に誕生日等には古里訪問し、友人、家族様との交流を深めている。(盆、正月の帰省も家族様の協力を得ている)	理美容院へ出かけるのは、ホームで行う。家族とドライブに出かけたり、盆、正月は自宅に2~3泊してくる方もいる。自宅では友人を招いて愉しむ方や、デイサービスの利用者が尋ねて来てくれることもある。家族の協力で支援が円滑に出来る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、入居者個々の特性を引き出しながら、入居者同士が関わりを持って頂けるよう支援している。(互いに助け合い、声掛けする場面も多い)		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GHから退去された方々の家族様に行事、親睦会等の連絡をし参加して頂き、今までの関係性を構築している。又、家族様も積極的に参加して頂いている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員会議等にて家族様、本人の希望、意向を確認し、把握しケアの共有に努めている。	利用者の表情で、気持ちの読み取りが出来るようになり、職員の励みとなっている。毎日訴えの異なる利用者に対しての対応や利用者同士のトラブルにも、職員は、話をよく聞き、誠意を持って接している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からの情報、フェイスシート等でこれまでの生活歴等について、職員間で情報共有し対応している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の毎日のケース記録、申し送り、バイタル測定等を通じて個々の状態把握に努めている。表情、体動等からのサインも常に視野に入れている。(早期発見、対応の為)			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン評価は毎月職員会議の中で行っている。又、家族様とのカンファレンスを行い、それを基に職員間で話し合い、情報等の共有化を図り計画を作成している。	ケアプランの作成、見直し時には、職員と全家族が参加をしている。現状の説明をしっかりと行い、理解を得て作成する。新しいケアプランは同意書を同封して郵送している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わった職員が、その都度ケース入力し必要に応じて申し送りを行い、職員間で情報を共有しケアプランに反映させている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場、状況に応じて職員同士の連携を密にし対応している。又、職員同士のコミュニケーションを図り、会議により改善に向けた取り組みについて共有化している。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 福光園グループホーム フクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回ボランティアの方々に来て頂いたり、慰問を通じて、地域交流を図っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居する際、家族様よりかかりつけ医を確認し受診を継続している。又、状況に応じ職員が同行し医師へ情報提供を行い、相談、適切な処置をして頂いている。	ほとんどの利用者は、在宅時からの受診継続である。通院は1名が家族対応、他の方はホームで対応している。報告は当日中に電話にて連絡している。オリジナルのバイタル点検表を持参して、医師との連携に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態把握はもちろんの事、状態に応じた初期対応は出来るだけ職員が行っているが、施設併設の為、ホームの看護師への協力体制がある。(指示、助言、適切な対応)			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、又は退院に向けて医療関係者へ情報提供行っている。(サマリー等にて)又、家族様についても都度報告を行い、その後の対応についても説明し相互共有に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化のホームとして機能しており、事業所としての方針を打ち出し、家族様、地域、行政へ提示し理解を求めている。又、家族アンケート、カンファレンスの場にて家族様の意向、事業所としての今後の対応について相互確認している。	法人の体制変更により、介護度の高い方の受け入れに変化ができた為、入所時には法人特養への申し込みについて、家族から理解を頂いている。重度化への対応や支援の方法について研修を行い、職員の意識にも変化ができた。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、ホームの看護師による内部研修会の実施。 普通救命講習会の実施。又、職員会議の際での対応の確認を実施。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。(夜間想定も含む) 災害マニュアル作成。防災用品の設置。 運営推進会議の際現状報告実施。	法人全体で年1回、ホーム単独で3回(夜間想定も含む)避難訓練を行っている。地域の協力員(区長、車屋さん、ガソリンスタンドの店員さん、民生委員)もお願いしている。推進会議の提案で、車椅子は居室に置くこと、ホームの中で煙はどの方向に流れていくかが確認でき、成果が上がっている。3回目は11月に予定されている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアル作成している。又、研修会参加し情報共有している。入居者個々に合わせ言葉使い、対応に注意しケア提供している。(尊厳のあり方の大切さ)	まず本人の気持ちを大切に、研修会、職員会議で情報の共有を図り、自己決定をし易い言葉かけをしている。「挨拶・協力・笑顔・努力」を心がけて利用者に接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者とのコミュニケーションを図り、本人の思い、希望を引き出せるような環境作りに配慮している。(個別支援の導き)			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の生活リズムを把握しており、共同生活ではあるが、出来る限り1人1人の思いを聞き入れ、その人のペースで生活出来るよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各居室に洗面台が設置してある。定期的に床屋へ出向いている。(訴えもある)衣類が取り出しやすいようクローゼットに収納してあり、自己決定に基づき支援している。毎日コーディネートし楽しみを支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者個々の出来る能力を活用し、声掛けにて手伝って頂いている。(食事作り、片づけ、テーブル拭き等)好みを考え、その人に合った食事を提供している。(代替えもあり)	メニューは当番職員が作成し、提供後に記入方式をとっている。声かけて皮むき、刻み方、のできる方や、後片付けは出来る方がやる。好みによって食材に変化を付けたり、すり身にするなど食形態を変えて提供に工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った食形態を提供し、食事チェック表、水分チェック表にて確認している。年2回カロリー計算の実施。(管理栄養士の協力を得ている)			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者個々に合わせた口腔ケアの提供を行っている。都度行掛けにて行って頂いている。又、職員が口腔ケアの必要性についても理解している。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 福光園グループホーム フクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、声掛け等にてトイレ誘導を行っている。夜間帯はポータブルトイレを使用して頂いている方もいる。(転倒防止の為)尿色、臭の確認も行い、状況把握に努めている。	夜間はポータブルを使用する方2名、大半の方は声かけでトイレ誘導している。利用者の頑張り、職員の連携で自立の支援を可能にしている。	グラフや文章を交えたバイタル点検表は、見やすく、家族からも好評であり、今後もアイデアを出し合って継続されることを希望する。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝オリゴ糖入り牛乳を飲んで頂いている。又、野菜を多く摂るようにしている。医師へ状況説明をし、整腸剤、下剤を処方して頂き対応している。(本人負担軽減にも努めている)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴時間を作っており、希望により毎日入浴の方もいる。又、安全配慮に努め、2人対応で入浴介助を行う場合もある。(ホッとする時間が入浴であるようである)	体制の変更により、夜間の対応は、難しくなったが日中は毎日でも可能である。浴槽に入ると、普段はあまり話しをしない利用者が、多弁になり、昔のことや、想いを語ることもあり、心までリラックスしていると感じるひと時になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週1回のリネン交換の実施。 食堂、居室の温度、湿度管理を行い、その場に合った対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表ファイルを作成し、職員同士確認出来るようにしている。通院に同行した職員は申し送り、ケース入力にて他職員との情報共有に努めている。入居者の状態変化の確認。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	草取り、裁縫、洗濯物たたみ等、入居者に合った機能を活かせるようケアしている。又、自発的行動も多く見られ、自身としての役割と捉えてる方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせ、散歩、ドライブ等行っている。家族様の協力を得て、誕生日の際は古里訪問、外食等行っている。地区行事の案内を頂き、参加している。	天候や体調に合わせて、法人内を散歩する。ホーム横の畑で草取り、(畑は区長さんがボランティアで手伝っている)全員が法人の車でドライブ(花見、厳美溪)で外食を愉しんでいる。家族と墓参りに行く方もある。	職員より家族も含めて温泉1泊旅行がしたいとの声がある。困難な点もあると思うが、実現に向けて検討を期待したい。



岩手県 認知症対応型共同生活介護 福光園グループホーム フクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はホーム側で管理し、必要に応じて対応している。又、入居者の希望により自己管理し、理容料等を自分で支払う方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話をかけてあげている。又、家族様からの電話も本人へとついでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設的な物は置かず、季節の花等を置き家庭的な雰囲気を出している。空調にて温度、湿度管理実施。窓、カーテン等で調整している。	玄関や洗面所のさりげなく置かれた季節の花、壁紙も季節によって変化を付ける。事務室を改造して誰でも自由に寄れたり、廊下のソファは好みの場所がある。畳の小上がりは洗濯物たたみに使われたり、寒くなると大きなコタツがかかる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、居間をオープンにし廊下、玄関先にソファベンチを置き、自由空間を大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様の写真、本人の私物、馴染みの物等を持ち込んで頂き、本人の過ごしやすいスペースを作っている。	仏壇、写真、時計、ラジオ、座布団、鉢植えの花、の持込がある。季節の衣類は家族が入れ替える方もある。どの居室も明るく清潔が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームはバリアフリーであり、スロープ、手摺り、足元灯の設置。 夜間もトイレ等、電気を点灯し安全配慮に努めている。		